

かくする内に三十年十月を迎へ豫定通り第一回卒業生として盛大に卒業式を舉行され愈々幼稚園の職員として世に立つ事となつた。

卒業生は京都師範岡山師範濱松幼稚園へ、八田寧子さん私は大阪へ赴任、坪内稻石のふたりはお茶の水に残り、或は九州へ横須賀へ奉職した。明治三十年より昭和七年まで四十年近くなつた。嘗て入學當時卒業後は永くこの道のために盡しませうと大久保先生にお約束したのであつたがこの永い歲月保育の庭で過しました事は先生へのお約束を幾分盡す事が出来ました事を嬉しく存じます。拾三人の卒業生の内次第に音信不通となりたるも卒業以後今尚この道をたぎつて居る人は東京の和田くら子さん横須賀の福本さん夫に私の三人である。最近まで名古屋の坪内きくさんが第一幼稚園に居られたが病ひのために退職された事は残念であつた。同じ卒業者の中でもお茶の水に近い場所に住むために他の人達に較べて母校の門をくゞる事も数多かつた。夫丈に先生方の御指導を頂く事も深く今月を限りお茶の水お引移りに際しまして數多く出入も繁かつたために一入思ひ出も深く偲べながら芽出度御移轉を御祝ひ申上げ非常な御繁忙であらせられた諸先生の方々の御疲れを御厭ひ遊ばされます事を切に念じまして筆をおく事に致しました。

明治三十五年から同三十八年まで在園

## 桂 和 歌 子

今日計らずも御依頼を受け、文才に恵まれぬ私が、在園當時の回顧を認めます事になりました誠に困却する次第でございます。しかし御縁故の深い幼稚園の事でございますから、兎も角思ひ浮ぶまゝを唯書きつらねて見る事に致します。

昔は應募者の少かつた爲か今のやうに入園がむづかしくなく、私の兄弟七人も此幼稚園の御世話になり、今より三十年前、末の子の私まで、御厄介になる事になりました。丁度五歳の四月でございます。其頃は一ノ組、二ノ組、三ノ組と申

し、一番小さい組にはいつて八歳で一ノ組を終へ、小學校へ送り出して頂きました。

湯島の通りを本郷三丁目の方から徒歩で通ひました。雨の日は、小島さんの御姉妹も、私の小さい姉も、私共四人一緒に人力車につかれたものでございます。校門をはいると廣場の真中に、馬車廻しの植込みが有りその邊に二三本の大きな銀杏の木がそびえてゐて秋には美しい金扇を拾はせてくれました。

御庭には大小のお山も大きなお砂場もあり藤棚の側にさんご樹が茂つてゐてその丸い葉で草履を作つて遊びました。北側の練瓦塀に添つて椎や檜が並び、ドングリ、なぎを、拾つてポケットに入れた事もございました。裏庭にはお池も有り、兄の植えた、青桐が脊高く、紫の露草が美しく咲亂れた頃も、目に残つて居ります。建物は洋館で子供の眼には大變大きく感じて居りました。なだらかな木の坂で庭への出入が出来ました。玄關の左が職員室で奥のつき當りが遊戯室その右隣の御部屋には珍しい玩具が陳列されて有り。おいたをしすぎたり、おだゞさんは、そのお部屋へ、しばらく、入られたものでございます。主事の先生は初め中村五六先生、後に東先生にお變りになりました。受持はおやさしい下田たづ子先生で随分御年寄のやうに存じましたが、今も殆んどお變りなく不思議に存ぜられますが、子供の時の感じは違ふものでございます。其外お静かな雨森先生、お美しい武井先生、なぎおいでになり、先生の先生では小此木先生、中川先生、小西先生を覚えて居ります。同級生は四十人餘りでしたが今でも御交際願つて居ります方は、高嶺さん、飯田さん、渡邊さん、又原さん、阪谷さん、矢作さん、山川さん、小林さんで男の方では豊川齋さん、入澤民政さん、なぎ思ひ出されますが、保育滿了後は殆ど御目にもかゝらず残念な事に存じます。不器用な私は粘土細工や豆細工でよく泣きたくなつた事がございました。脊の高い色の白い爺やの小使さんがよく面倒を見てくれました。

毎日課業の終りにはオルガンに合せて、各組も別々に「今日の稽古はすみました」云ふ唱歌を歌つて、先生の御見送りを頂いて歸へりました。土曜日には、幼稚園恩物もか申し、美しい御細工のおみやげを頂いて、ほんまうに喜び勇んで

歸へりました。

丁度三ノ組の時、明治三十五年十月二十八日、時の皇后陛下の行啓を仰ぎました。私ぎもはお庭で「雁々わたれ」こ桃太郎さんの唱歌を遊戯を御覽に入れました。

一ノ組の時には日露戦争當時で遊びは凡て戦争ごつこでございました。男のお子は、お山の上や、木の蔭等で、勇敢に戦はれ、女のお子は、赤十字の腕章を巻いて負傷者の後送を看護を致しました。

服装は、メリンス、や、銘仙、久留米紬の筒袖の看流しに、エプロンを掛けて、靴をはいて居りました。男子も洋服の方は極くまれでございました。式日には質粗な紋服なきに袴をはいて参りました。式は今違ひまして幼稚園だけ別に遊戯室で致しまして男女二名の園児が總代になつて祝詞を主事の先生に申し上げたやうでございます。

髪はおかつばに致して居りまして小學校入學前後から、のばしてたばねる位でございます。

唯今私は長男を送り毎朝なつかしい母校の幼稚園へ通つて居ります、親も子も同じ學校の御恩を受けられました事から有難く存じて居ります。大震災の爲に校舎も校庭も全部變り、保育法も最新最高の方法になられて昔のおもかけはございませんがごこみなく昔をしのばれる高尚な傳統のうかゞはれる事は私の喜びに絶えぬ處でございます。

その校恩を思ふ時、私は心して表より裏より我が校の精神を幼き者に移し植えて將來の正しき日本國民たらしめるやうにつこめなければならぬと覺悟するのでございます。

—— 昭和七年十二月七日 ——